

生産拠点周辺の水環境を守る

YOKOHAMA RUBBER
CSR REPORT 2012

特集

3



工場で使用する量と同じだけの水源を守りたい

「横浜ゴムの製品は、天然ゴムや鉱物資源など自然の恵みで作られていて、製造工場も大量の水資源の恩恵を受けている。でも自然からもらうばかりでよいのだろうか？ 私たちにできることは何だろうか？」という思いで2010年から本格的に開始した生物多様性保全への取り組み。私たちが事業活動を行うに当たって、どうしても避けられない環境への影響をできるだけ低減し、地域社会と横浜ゴムが共生するための、グローバルかつ長期的な活動に取り組んでいます。

国内で最初に取り組んだのが三重工場。「自然やそこに生きる命を見守り続けることで『守る』」ことから始めました。「すぐには難しいけれど、いつかは、工場で使用する量と同じだけの水源を保全・創造したい」。そんな思いで活動に取り組んでいます。

調査の概要

2010年6月

国内15カ所、海外15カ所の拠点において予備調査

- 事業所周辺の自然環境を調査。今後活動を進めるに当たって優先順位の高い拠点の絞り込み
- 調査の結果、まずは三重工場で調査・活動を開始することを決定

2010年11-12月

三重工場現地調査

- 工場周辺にある湿原や草原など保水能力が高く生き物の豊富な地域において、今後どのような調査が必要かを検討
- 現地調査結果を踏まえ、調査計画を策定することを決定

2011年4-11月

本調査

- 季節ごとの環境の変化を考慮し、年4回(5月、8月、10月、11月)の本調査を実施

2011年12月

従業員ワークショップ
地域住民への説明会

従業員ワークショップ

- 調査結果の共有と活動内容検討

地域住民への説明会

- 活動計画の共有と意見交換

2012年

調査実施拠点の拡大

- 三島、新城、長野、タイ工場へ

横浜ゴムこだわりの実施方法 従業員と共に、地域住民と共に

この調査における横浜ゴムのこだわりは、従業員が自分たちで考え、活動していくこと。専門家のアドバイスを頂きながら、従業員が調査、計画策定、活動を実施します。「普段、事業を行っている地域の環境を自分たちの手で守り、地域から愛される工場をつくる」。これが私たちの目指す姿です。

まず、三重工場で取り組んだのは、自分たちの事業活動がどれくらいの影響を環境に与えているのか、それを調査することでした。自然を守るための見守る活動「自然生き物健康診断」の結果分かったこと、それは工場周辺の2つの川には多くの生物が生息していたことと、三重工場の排水が松尾川の水質維持に貢献していたことでした。

宮川流域には、トンボやカゲロウ類、そしてケリやモズ、オオヨシキリなどのたくさんの鳥たちも生息しています。松尾川は、生活排水で汚染されている箇所があるものの、メダカやコイ、ボラ、イトトンボ類が生息するほか、小魚を狙って、アオサギやカワウも飛来することが分かりました。

2011年12月、三重工場では「これまでの調査結果を踏まえ、自分たちは何ができるのか」をテーマに、工場の従業員41名が7つのグループに分かれて、白熱した議論を繰り広げました。

中には、自らを「チーム抜根（ばっこん）」と名づけ、コマツヨイグサなどの外来種を間引きし、在来種を保全しながら、希少鳥類のセッカを生態系の環境指標種として保護するといったチームや、松尾川をホテルがすすめる天の川にすることを目指したチームも。モニタリングや、ごみ拾い、外来種の駆除、草刈り、メダカの保護など、それぞれが「自分たちの地域を守る」ために出したアイデアが各チームから発表されました。ワークショップに参加した工場長の中村亨は「活発な意見交換をしているのを見て、とても誇らしく思いました。伊勢神



二見町海浜草原での植生調査



三重工場の従業員ワークショップ

宮があり、山と海、そして豊かな川に恵まれたこの土地を自分たちの手で守っていこうという気持ちが強い、この地域ならではの雰囲気ですね」と感想を語りました。

従業員による議論結果を踏まえ、「宮川流域の生態系を保全」するための、「取水」と「排水」の両側面での保全活動の計画を地元の自治体や、メディア、NPO 関係者などにお集まりいただき、ご理解いただくのが次のステップでした。

何度も繰り返されている地域懇談会。この懇談会では、ある自治体会長から「これまでは横浜ゴムから汚れた水が流されていると勘違いをしていましたが、前回の説明会でそれが誤解であることが分かりました。だから、わたしは地区に戻って住民にそれを説明したんです。これからは地区のみんなで横浜ゴムさんを応援しますよ」といった、うれしいお言葉を頂きました。

対話によって生まれ、育まれる信頼関係。これこそが、私たちが目指す姿そのものです。



松尾川の水生生物調査



住民説明会

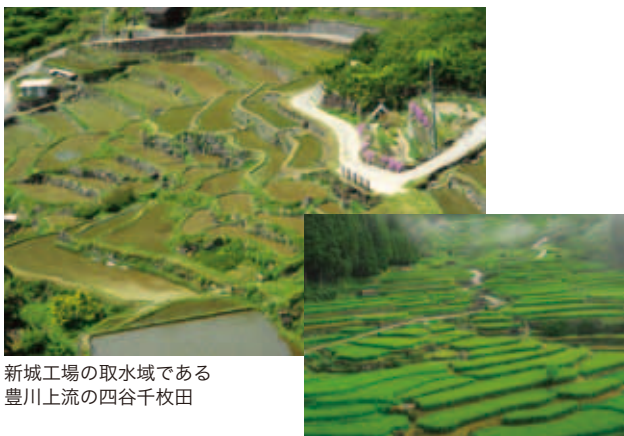
国内他拠点への展開、そして海外へ

このような三重工場での取り組みをモデルに、2012年度は三島工場、新城工場でも活動を開始しました。私たちの生産活動が自然環境にどのような影響を与えていて、それを守るために私たちには何ができるのか。従業員自らが学び、調査する姿勢はどの拠点でも共通です。それぞれがこれまで取り組んできた活動や、地域とのコミュニケーションから生まれた各拠点への要望などを踏まえて、独自の最適な活動計画を策定していきます。

また、当社グループにおいて、原料調達、開発、生産、販売といったすべてのプロセスにおいて重要な国であるタイでも、調査を開始。持続可能な原料調達の観点も含めた活動に取り組む予定です。



新城工場の排水先（野田川）
水質調査の様子



新城工場の取水域である
豊川上流の四谷千枚田

横浜ゴムグループの活動は始まったばかりです。すぐに結果が出る活動ではありませんが、見守り続けていくことに意味があると信じ、これからも、「従業員と共に、地域と共に」このこだわりを守り続けながら、地道に実直に取り組んでいきます。



ゴム農園でゴムノキの
育て方をヒアリング



タイ工場の水源地カオソック国立公園で説明を受ける様子

各地の保全活動概要（一部）

新城工場	鞍掛山麓 四谷の千枚田 保全活動、敷地内に水生生物のすめるビオトープの設置
三島工場	湧水河川、桜川の清掃活動



Webで三重工場の調査結果、活動計画の概要および、関連ステークホルダーの声を掲載していますので、併せてご覧ください。

地域の方の声

横浜ゴムさんは、これらの活動を自ら楽しみながら取り組んでおられる姿勢が素晴らしいと思います。行政としては、横浜ゴムさんの取り組みを県のホームページに掲載するなどしてPRすることで協力できればと思います。

科学自体が進化していますので、常に勉強をしながら、活動が正しいかどうかどうなのか自問自答しながら進めていただければ、世界一の取り組みになるのではないかと思いますし、それを期待したいです。

「生物多様性の正しい答え」はないと思いますので、調査された結果や内容を社会に発信し、自身の活動について社会の声を取り入れていただきたいと思います。



三重県環境森林部
柳田 国男氏